

まごいし
孫石遺跡

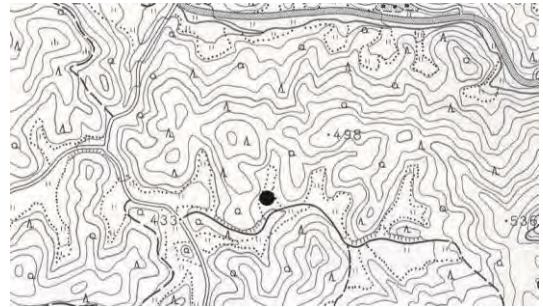
所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 30 秒
東経 137 度 19 分 38 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 8 月～平成 23 年 9 月

調査面積 600 m²

担当者 鵜飼雅弘・本田英貴・石井香代子



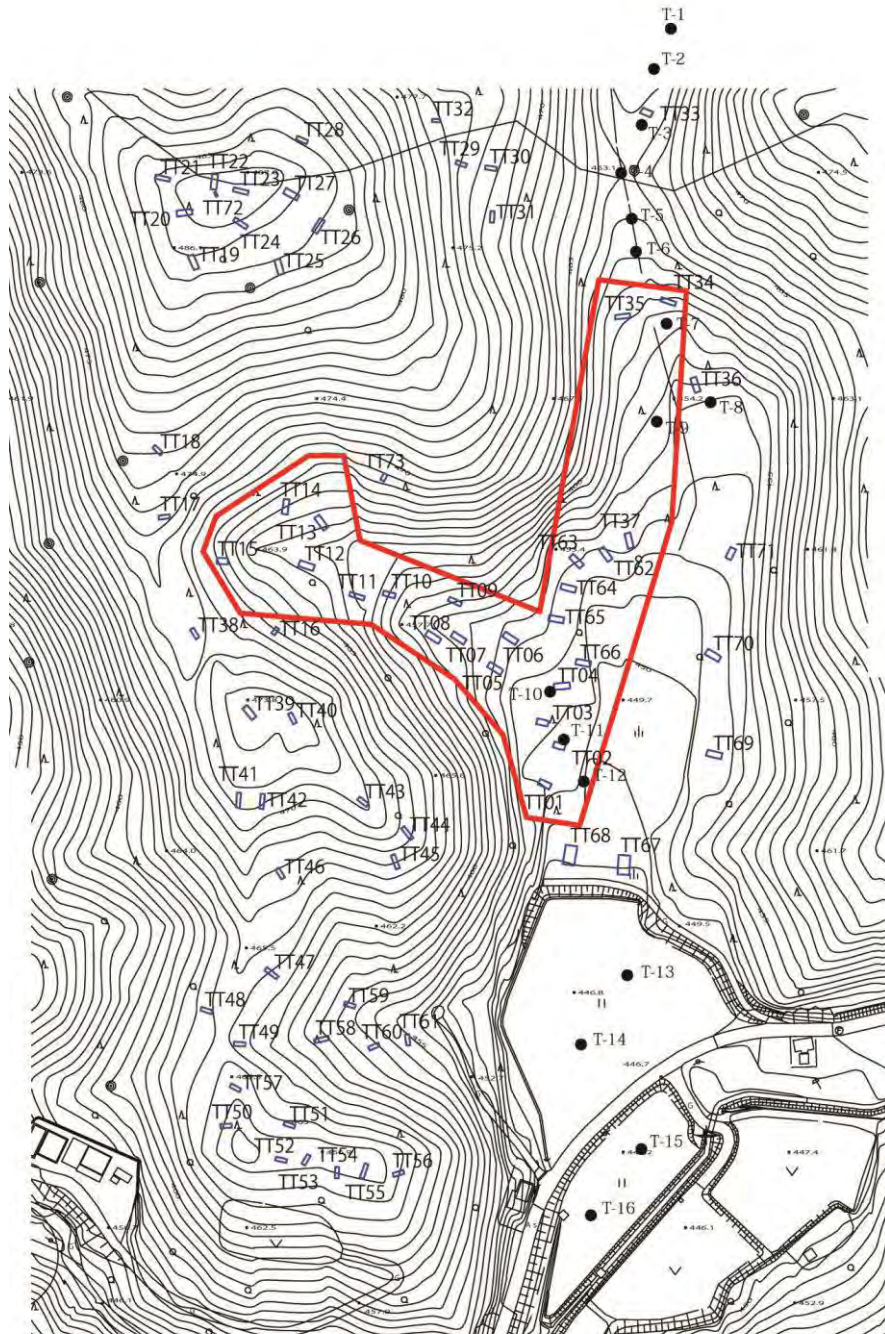
調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 孫石遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 孫石遺跡は南に開口する南北の谷と、その谷に取り付く 2 つの小規模な谷、それらを取り巻く尾根から成る。谷の開口部付近は水田として利用され、それ以外は植林されたスギ・ヒノキや雑木が生えていた。

試掘調査では北の支谷の裾に設定した T-10、12 で土坑状の落ち込みや山茶碗、土師甕等の遺物を検出している。この結果を受け、北の支谷とその周辺を中心に計 73 カ所の試掘坑を設定した。

調査の概要 T-10、12 近くに設定した TT01～03 では灰釉陶器、山茶碗、古瀬戸等の破片が出土した。これよりやや北の TT37、63～66 では、表土直下の黒褐色、および黄褐色土から多数の弥生土器 (条痕文土器)、灰釉陶器、中世の土師器が出土している。なお、これらの試掘坑は遺物のみで遺構は検出していない。(石井香代子)



トレンチ位置および遺跡範囲 (1/2000)

とよがした

トヨガ下遺跡

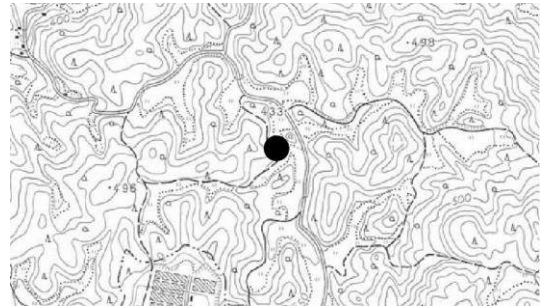
所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 25 秒
東経 137 度 19 分 8 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成

調査期間 平成 23 年 8 月～平成 23 年 9 月

調査面積 700 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 トヨガ下遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 トヨガ下遺跡は郡界川支流の沖川左岸に立地し、北には柿根田遺跡、東には猪移り遺跡が隣接する。地形的には、南の尾根部分から北東方向へと向かう大きな谷を中心に大小の尾根と谷が入り組んでおり、現況は水田と山林である。

調査の概要 トヨガ下遺跡に設置した 96 か所の試掘坑 (TT01～TT96) のうち、遺跡の広がり確認できたのは、南の尾根部分から北東方向と向かう大きな谷 (現況水田) に向けて開口する大小の谷部に設置したトレンチからであった。現況の水田部分からも遺物は出土したが、旧態が沢か沼と考えられるグライ化した湿地性堆積土層からの出土であり、遺物は他の場所から流れ込んだものと推測される。

調査区北部 西から東方向へ向かう緩やかな谷の緩斜面に設定した試掘坑では、複数層の黒色土層の広がりを確認している。平成 22 年度の試掘調査では土坑状の落ち込みや溝状の落ち込みが確認されており、土坑状の落ち込みの埋土からは土鍋が出土したと報告されている。

調査区中部 北西から南東方向へと向かう大きな谷に設定した試掘坑でも複数層の黒色土層の広がりを確認した。TT41 では、2 層の黒色土層を確認するとともに地山を掘り込んだピット 1 基を検出した。平成 22 年度の試掘調査では谷の開口先端部においてピット 1 基を検出し、縄文土器の出土、火山灰の検出、平場上段での須恵器の出土が報告されている。

調査区南部 南東から北西方向へと向かう小さな谷に設定した試掘坑でも黒色土層の広がりを確認した。TT88 では地表面から 5 層目に黒色土層が認められ、この層から土師質の甕と思われる遺物が出土している。また、この谷の西に隣接する尾根頂部に設定した TT86 では、炭化物が多量に詰まり、底部が被熱して赤褐色化した土坑 2 基を検出した。

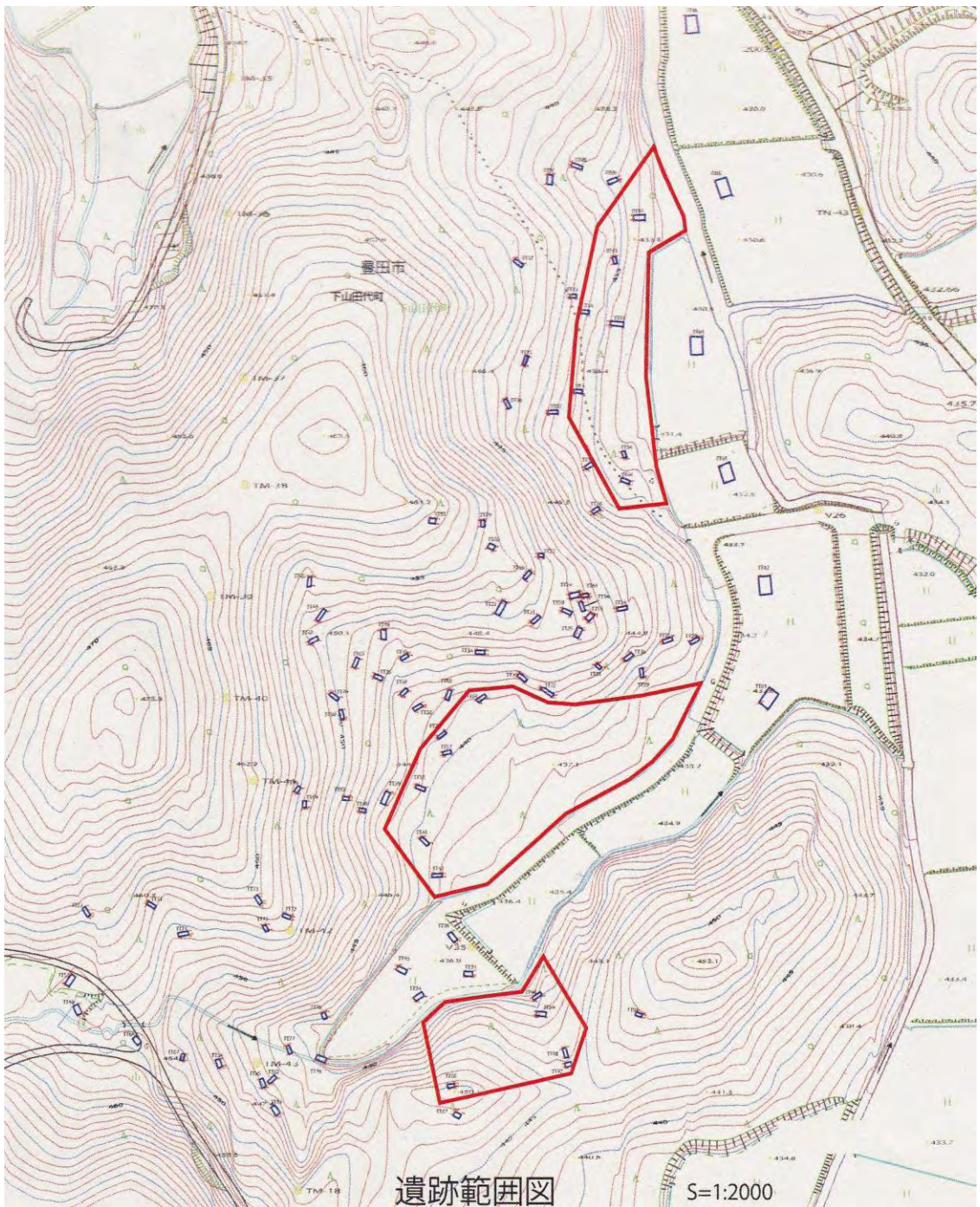
(伊奈和彦)



TT8 断面写真



TT8 出土遺物



いうつり
猪移り遺跡

所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 24 秒
東経 137 度 19 分 15 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 9 月

調査面積 550 m²

担当者 鵜飼雅弘・本田英貴・石井香代子



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 猪移り遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 本遺跡は沖川の右岸の丘陵、尾根及び尾根の南に広がる谷に所在する。現況では水田、山林となっている。西にトヨガ下遺跡が所在する。

平成 22 年度の試掘調査では、尾根の南斜面 (T-6) から灰釉陶器の碗 2 点と、皿 1 点がほぼ完形で出土している。

調査の概要 試掘坑は沖側の右岸丘陵に 9 ヶ所 (TT01~06、50~52)、尾根の頂部から裾にかけて 23 ヶ所 (TT08~24、33、53~57)、尾根の南の谷部に 24 ヶ所 (TT25~32、34~48)、水田に 1 ヶ所 (TT49) の計 57 ヶ所設定し、遺構・遺物の有無と、堆積状況を確認した。

丘陵上は、西側は遺構、遺物ともに確認できなかったが、東側の北に下る斜面の上部に設定した TT04 で地山直上の黒褐色シルト層を掘り込む溝 1 条を、隣接して設定した TT52 では土坑 1 基を検出した。TT52 では褐色シルト層から土師質の甕が出土した。

尾根については、頂部から尾根筋にかけては表土すぐ下に地山が表れる。裾部の北に下る緩斜面では、黒褐色シルト層が地山の上に表れ、TT07 ではにぶい黄褐色シルト層から条痕文土器片が出土し、黒褐色シルト層から縄文土器片が出土した。同じく南に下る緩斜面でも同様の黒褐色シルト層を確認し、黒褐色層の直上の褐色シルト層から灰釉陶器が出土した。また、TT33 では凝灰岩片が 1 点出土した。

尾根南の谷部は、大部分に湿地性堆積が見られ、遺物は中世、近世のものが、腐葉土直下から出土した。谷の上部はやや緩斜面状になり、TT32 では暗褐色から山茶碗、土師質の鍋が出土した。 (本田英貴)



猪移り遺跡 (S=1/1,000)

※赤枠は遺跡範囲